

団体名 <b>南風原町教育委員会</b> <b>(学校教育課)</b>	連絡先 学校教育課 TEL : 098-889-6181 Eメール : haebedu@town.haebaru.lg.jp
---	--

## 1 実践事項 ( 特色ある取組 ) 学校教育部会

タイトル : 「 (1) 読解力の育成を通じた学力向上の推進 」  
 「 (2) 温かい学級集団づくり支援 」

## 2 実践内容

### 町学力向上推進の目標

「すべての学習の基盤となる『読解力』の育成を通して学力向上を推進する」

※読解力とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」をいう。

(文部科学省HP「PISA調査における読解力の定義、特徴等」より引用)

### (1) リーディングスキルテスト (以下: RSTと表記)の結果を活かした授業改善の取組

リーディングスキルテストは、「文章に書かれている意味を正確にとらえる力(基礎的な読む力)を測定・診断するツールのこと。 <教育のための科学研究所HPより引用>

本町では、小学校6年生、中学校1・2年生を対象にリーディングスキルテストを実施しているが、テスト結果は、基礎的な読む力(読解力)について、次の6つの視点から分析することができる。なお、6つの視点については、授業改善を推進する視点として押さえる。

※RSTの結果を活かした授業改善を推進する際に押さえておくべき視点(視点を踏まえた授業改善)

#### ①「文の基本的な構造」を正しく把握する力。(読解力の最も基礎となる力)

☞主語や述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句、接続する語句などを把握する力

#### ②「代名詞が何を指しているか」を正しく認識する力

☞指示代名詞が指すものや、省略された主語や目的語を把握する力

(これ、それ、あれ、どれ、それら、これら、そのように、このように、など)

#### ③与えられた2つの文が同じ意味かどうかを正しく判断する力。語彙力や論理力が必要となる。

☞2つの文の意味が同一かどうかを判定する力。

この力は、自学自習をする際に欠くことができない能力と言われている。

自分の力で答え合わせをすることができるかどうか。(自己採点)

#### ④自分が持っている知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する力

☞学校で学んだ知識と生活の中で身につけた常識から結論を導くことができるか。

推論の基本となる三段論法の視点で正確に読み解くことができるか。

#### ⑤文と図やグラフ等の非言語情報を正しく対応させ読み解くことができる力

☞文章で表現された内容と図や表、グラフなどが対応しているかどうかを見極めることができるか。

例) 社会・・・説明文と地図との関係、説明文と写真・イラストとの関係

説明文とグラフとの関係、説明文と用語解説との関係など

#### ⑥文章で表現されている言葉の定義や意味をおさえた上で、新しい語彙と関連づけて使うことができる力。

算数や数学、理科等で使われる言葉の意味や定義を理解し、様々な事象と関連づけて使うことができる力。

☞文章の最小単位となる「単語」(言葉、語彙、教科で使われる用語等)を獲得しているか。

獲得した「単語」(言葉、語彙)の意味を理解しているか。

教科書などに示された単語や文章(定義文)を理解しているか。

獲得している単語や文章を具体的な例に当てはめて使うことができるか。

全国学力・学習状況調査、県到達度調査等の結果やRSTの結果から見えてきた課題を照らし合わせ、課題に対しては、6つの視点を活かした授業改善の推進を図った。

(2) 温かい学級集団づくり支援

南風原町では、令和4年度よりhyper-QUを小学1年生から中学3年生まで実施。

その結果を基に、学級集団づくりの支援を始めた。これは、「読解力育成」に係る授業改善に向けて、基盤となる学級を「学習集団」へと育てることによって、互いに支え合い、教え合い、学び合う児童生徒の育成につながっていくものと捉えている。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

(1) RSTを活用した学力向上への取組

① RST結果を活用した家庭学習の取組

本町では、小学校5年生から中学校3年生の児童生徒を対象にRSTを実施している。

受検した児童生徒に対して、6つの視点で結果が示される。その結果を家庭学習に活かす手立てとして、児童生徒及び保護者向けに右のような資料を作成し配付した。

The document explains how to use RST results for home learning. It includes sections for '関係解析とは' (What is relationship analysis?), '照応解決とは' (What is cross-reference resolution?), 'DEP(係り受け解析)' (DEP: Relationship analysis), and 'ANA(照応解決)' (ANA: Cross-reference resolution). It provides examples of how to analyze text and use the results to improve reading skills.

The document titled 'リーディングスキルテスト(RST)の結果の見方' (How to look at RST results) explains the test and how to interpret the results. It includes sections for 'リーディングスキルテスト(RST)とは' (What is RST?), 'RSTの結果について' (About RST results), and 'RSTの結果について' (About RST results). It provides information on how to use the results to improve reading skills and how to interpret the scores.

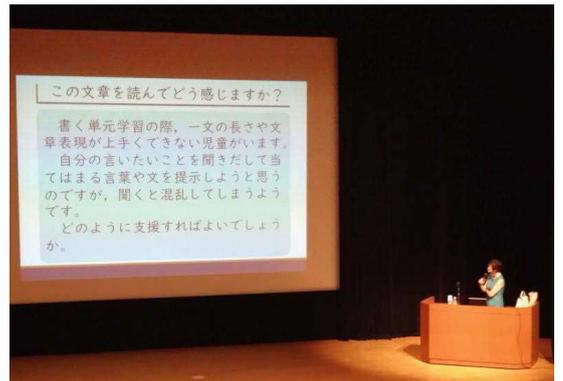
①読解力育成に向けた講演会（令和5年8月19日）

具体的な実践事例等を学ぶために、県外より講師を招き講演会を実施した。

講師：目黒朋子氏（教育のための科学研究所 上席研究員）

講師からは、次のようなことが提示された。

- RSTを受検して終わりではなく、実態分析・把握することが大事
    - ・全体の傾向を把握（クラス、学校）
    - ・個人の実態を把握（テストを暗記に頼っていないかなどの仮説を持つこと）
  - 実態を把握した上で、RSTを活用した授業づくりが実現できると
    - ・つまずきや困難さを予測することができる。
    - ・教員の指示や発問が変わる。
    - ・授業が変わる。
    - ・読解力が向上する。
- など、RSTを活用している自治体の事例を交えた講話であった。
- さらに、RSTをふまえた授業改善の視点として、教師が「解像度」を高くして教科書を読むことで、より深まりのある授業づくりにつながるとの講話であった。



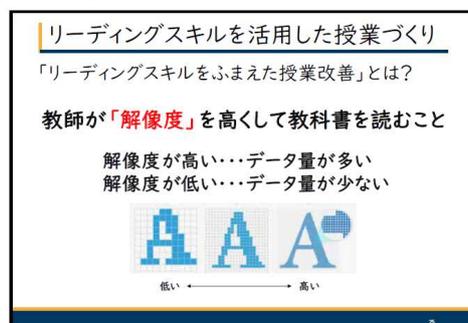
The slide titled 'リーディングスキルを活用した授業づくり' (Classroom creation using reading skills) lists several points for improving reading skills in the classroom:

- 先生方も文章の読み書きについて解像度を高くする
- 「じっくり」「しっかり」「きちんと」「よく」ではなく、「どうするか」がわかるように言語化していく
- 国語科だけでなく、全教科で取り組む
- 小学校からグラフの読み取りなど、「イメージ同定」の力を育成する（根拠を基に）
- 児童の書いた文が「文になっている」かどうかを常にチェックする（主語と述語、言い回し、対応する言葉）（文が一意になっているか）

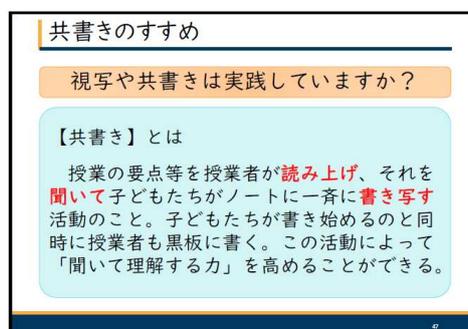
その中で「教科書を解像度高く読む」とは、教科書で使われている「学習用語」を教師自身が教材研究を通して把握すること。児童生徒の実態に合わせて、つまづくであろうと思われる「学習用語」を意識した授業づくりをすることが重要とのことであった。教科書で使われている「学習用語」は、日常生活の中で触れる機会や使うことが少ないため、「音読」や「視写」を通して、事前に触れさせることで、学習に向かう姿勢づくりの一つとして実践した方がよいとの提案があった。

○講師からの提案を受けて、本町では、以下の取組を開始した。

- ・「音読」「視写」を通じた学習環境づくり
- ・「教科書分析」を通して教師が「解像度」を高くして教科書を読み、教材研究を行う。(図1)



- ・授業のめあてを板書する際「共書き」を実践し「聞いて理解する力」を育てる。(図2)



## 4 成果

### (1) RSTの視点に立った授業改善（読解力育成）

- RSTの視点に立った授業改善を具体的に行えばよいか悩んでいた。講師の目黒朋子氏からRSTから見えてくる南風原町内小中学校児童生徒の課題や、授業改善に向けての具体的な実践事例を紹介して頂けた。その事例をもとに、RST6つの視点、7項目を踏まえた「教科書分析」を踏まえた教材研究を行うことの重要性を確認することができた。
- これまで学校の宿題等で行われていた「音読」は、全ての教科において読み解く力の基礎となること、また、書く力を育てるために「視写」を通して、書く体力を育てることにつながっていくことも確認することができた。

### (2) 温かい学級集団づくり支援

- hyper-QUのデータを活かした、人間関係づくりや係活動など学級集団づくりに取り組むための支援を行うことができた。
- 作業療法士の活用については、学級集団づくりと関連づけて個への対応だけでなく集団を育てる視点など指導主事も一緒になってサポート会議を行うことができた。

## 5 課題

### (1) RSTの視点に立った授業改善（読解力育成）について

- 読み解く力の育成についての具体的な取組が始まったところであるが、今後、教科書分析や共書きについては、継続的な取組につながるよう各学校と連携し実践法だけでなく理論も踏まえた研究を進めていく必要がある。
- 「音読」「視写」については、その目的や方法について教職員だけでなく保護者へも理解してもらうために、PTAと連携した取組が必要。

### (2) 温かい学級集団づくり支援

- 学級集団づくりは、「意図的」「計画的」な取組が求められる。キャリアステージに合わせた取組、支援が行えるよう体制づくりを図る必要がある。